

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|---------------|--|
| 学校名 | 吉野ヶ里町立東野振中学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、全職員が基礎的基本的な知識・技能の習得ができる授業展開を行い、生徒が自分の言葉でまとめや振り返りをする場面を設定する授業の充実を図る。 ・心の教育については、全ての教科や学校行事において夢や目標について考える場面や振り返る場面を計画的に設定する。 ・教職員の働き方改革の推進については、教育課程の業務の見直しによって一層の在校等時間の削減を図る。 ・不登校対策については、教育相談部会や月1回の「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」において、情報交換を行い対応を協議する。また、次年度もSCやSSW等と連携を取りながら支援を継続する。 |

| | |
|----------|-------------------------------|
| 2 学校教育目標 | 「自立と尊重～自ら学び、互いを尊重し高め合う生徒の育成～」 |
|----------|-------------------------------|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上と心の教育については、非認知能力に関する調査を利用した支援方法に検討を加える。 2 学校行事やキャリア教育等を通して、夢や目標を持ち、その実現に向けて努力する心を育てる。 3 教職員の働き方改革の推進については、教職員の意識改善を図り在校等時間の削減を図る。 4 不登校対策については、教育相談部会と「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」での情報交換を継続し、対応を協議する。 |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 | |
|-----------------------------|---------------------------------------|--|---|---|---|---|--|---|--|---|---------------------|
| | | | | 進捗度(評価) | 進捗状況と見直し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | | |
| | | | | | | | | | | | 学校関係者評価 |
| (1)共通評価項目 | | | | | | | | | | | |
| ●学力の向上 | ○学習内容の定着に向けたふりかきや授業の実践 | ○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80%以上 ○学習内容の振り返らせ方を工夫した教員80%以上 | ・個に応じた指導と協働的な学びの場を設定し、生徒の学習内容の定着と意欲喚起を図る。 ・生徒自身が自分の言葉でまとめや振り返りをする場面を設定する。 | A | ・11月に実施したアンケート調査では、「各教科の授業がわかる」と回答した生徒が83%であった。 | A | ・生徒アンケートでは、「各教科の授業がわかる」と回答した生徒は、昨年度より4%下回ったものの、ほぼ全教科で80%を超えることができた。 ・授業においては、授業づくりのステップ2まで全教科で実践ができている。 | A | ・達成できている。 ・授業を参観して、生徒は落ち着いた授業態度で、積極的に発表や発言、教え合いができている。 | 学力向上コーディネーター：永田 | |
| | ●心の教育 | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒80%以上 | ・道徳科ではこれまで蓄積した資料を利用してチーム・ティーチング、ローテーションによる授業を行う。 ・道徳に関するアンケートを行う。 | A | ・11月に実施したアンケート調査では、「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒が89%であった。 | A | ・道徳の授業では、全学年において毎時間ともTTで授業を行い、T1とT2で役割分担して、授業準備から振り返りまでの細かに行っていることで、生徒の道徳性は高まっていると感じられた。 | A | ・達成できている。 ・道徳の授業を通して、生徒の道徳的価値を高めることができている。 | 道徳教育推進教師：大塚 |
| | | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○学校がいじめ防止に取り組んでいると回答する生徒80%以上 ○いじめ防止について細密な対応ができていると回答した教員80%以上 | ・関連運来生にアンケートを行う。 ・毎週の職員連絡会で情報交換及びいじめ防止対策委員会を随時開催を行う。 | A | ・11月に実施したアンケート調査では「学校がいじめ防止に取り組んでいる」と回答した生徒が89%であった。 | A | ・いじめの早期認知を迅速に行い、複数職員での当該生徒への事業連絡、指導、保護者対応にあたることで、重大事案発生防止につなげることができた。 | A | ・達成できている。 ・今後も早期発見・早期対応に努めて、生徒が充実した学校生活を送れるように取り組む必要がある。 | 生徒指導：安武 |
| | ●キャリア教育 | ○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に取り組もうとするための教育活動 | ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした生徒80%以上 | ・キャリア教育「夢をかなえる地図」等への計画的な導入を行う。 ・確切的行事の生徒活性化等「唯一無二の東野振中づくり」を行う。 | B | ・11月に実施したアンケート調査では「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒が67%であった。 | B | ・将来においては、まだ漠然としているものの、生徒は夢が「オープン・イノベーションをかなえる地図」・夢に「近づく(第1歩)を活用しており、将来への明確なビジョンを少しずつ描くことができています。 | B | ・達成であった。 ・職業講話や職業体験、生業に学ぶなど、生徒が夢や将来の目標について考える機会を増やす必要がある。 | 進路指導：キャリア教育：堤 |
| | | ○生徒活動目標「東中さんみんなで頑張るHQS」の挨拶、時間の管理、自問自答の実践 | ○挨拶ができる生徒80%以上 ○時間を守り行動できる生徒、自分で考えて掃除ができる生徒も同様 | ・生徒会総務部によるあいさつ運動やノーチャームの実施。 ・教員は授業2分前に教室臨場を行う。 | A | ・11月に実施したアンケート調査では「挨拶・時間を守る・掃除ができる」と回答した生徒が87%であった。 | A | ・授業前後の挨拶だけでなく生徒会主催の挨拶運動を通して、学校全体で目標達成のために取り組み、改善を図った。また、2分前行動をきちんと行うよう共通理解を図り、生徒会と連携し学校全体で取り組むことができた。 | A | ・達成できている。 ・生徒会主催の挨拶運動を通して、学校全体で目標達成のために取組ができている。 ・地域の人々とあいさつ運動や清掃活動などもと機会を増やすとよい。 | 生徒会担当：岡山 |
| | ●健康・体づくり | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ○朝食を食べる生徒90%以上 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上 | ・給食週間に「健康・早起き・朝ごはんの重要性を全校生徒に行う。 ・家庭科や保健体育など食の大切さを取り上げた授業を行う。 | B | ・11月に実施したアンケート調査では「毎日朝食をとっている」と回答した生徒が88%であった。 | B | アンケートの結果では「毎日朝食をとっている」と考えた生徒は88%であり、昨年度より2%ダウンした。しかし、「健康に食事は大切である」と考えている生徒の割合は十分目標を達成することができた。 | B | ・未達成であった。 ・食事をすることについては、今後も朝食の重要性について視察を踏まえて説明し、各家庭に情報を発信して啓発する必要がある。 | 給食指導・食育指導：中山、山口 |
| | | ○健康や体づくりについて意識づくりの促進 | ○部活動や社会体育及び文化活動に取り組む生徒80%以上 | ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、保護者会と連携を図る。 | A | ・11月に実施したアンケート調査では「部活動や社会体育、文化活動に取り組む」と回答した生徒が82%であった。 | A | ・部活動の顧問を複数体制とし、常に臨場指導を行う。また、部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方については、保護者や教育委員会と連携を図りながら行う。 | A | ・達成できている。 ・部活動の在り方については、今後も保護者や教育委員会と連携をとりながら充実を図ってほしい。 | 体育主任：部活動担当：城島、松尾 |
| | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則時間外在校等時間の削減 | ・保護者に向けた教職員勤務時間文書を配布を行う。 ・長期休業中は紙札を行い、定時退勤を行う。 | B | ・教育委員会規則時間外在校等時間の上限に達する職員が0(ゼロ)であった。 ・職員休業中は紙札を行い、定時退勤を行っている。 | B | ・毎週土曜日は部活動休業日とし、定時退勤するように意識を高めることができた。 ・職員の90%以上が年休を7日以上取得することができた。 | B | ・未達成であった。 ・定時退勤日の意識を高め、実行することが大切である。 | 衛生推進者(教頭)：笠 |
| | | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ○適正な部活動の推進と健康管理体制の充実 | ○水曜日と毎月第3日曜日の部活動休業日の100%実施。 本校部活動運営方針に基づき、スポーツ科学等の裏付けのある適切な運営を行う。 | A | ・本校部活動運営方針に基づき、適切な運営をおこなうことができた。 ・平日の部活動時間を見直し、顧問の負担にならぬように変更を行った。 | A | ・部活動休業日を「部活動活動方針」に定め、実施を徹底することができた。平日の部活動時間を見直し、顧問の負担にならぬように変更を行った。 | A | ・達成できている。 ・職員のメンタル・ヘルスに対する計画的な部活動ができている。 | 部活動担当、衛生推進者：城島、松尾、笠 |
| | ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育についての理解と個に応じた支援を行う。 | ○ふれあい学級の生徒に対するアンケートで、学校が楽しいと回答する生徒80%以上 | ・特別支援教育推進委員会、職員連絡会で学校生活の情報交換を行う。 ・職員研修を通して、特別支援教育に関する理解を高め、共通認識をもとに個に応じた支援を行う。 | A | ・ふれあい学級の生徒14人に対するアンケートでは「学校が楽しい」と回答した生徒が89%であった。 | A | ・特別支援教育においては、支援学級生徒ひとりひとりに個に応じた支援を行うことができた。また、週1回行っている特別支援教育部会「情報共有し、支那の在り方」を後継したりすることができた。 | A | ・達成できている。 ・昨年度より3%ほど下回ってはいるが、ふれあい学級で過ごすことは、かなり快適に感じている生徒が多く、居心地が良いと感じている。 | 特別支援教育コーディネーター：古館 |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | | | |
| ○不登校・長期欠席対応 | ○長期欠席、不登校及び不登校傾向の生徒(以下「不登校等生徒」)対応の共通化 | ○不登校等生徒対応に関する理解が向上した教員90%。 | ・「長期欠席・不登校対応スタンダード」をテキストに、職員が共通認識をもって対応を進める。 ・教育相談部会、ネットワーク連絡会で情報共有と連携を行う。 | A | ・不登校等生徒対応に関する理解が向上したと回答した教員は100%であった。 | A | ・不登校・長期欠席対応については、月1回行われる不登校対策ネットワーク会議や毎週行っている教育相談部会で情報共有することによって、個に応じた対応や生徒対応に関する理解が向上したと考えられる。 | A | ・達成できている。 ・月1回のネットワーク連絡会で、初期の段階でそれぞれの関係者が専門性をもって対応ができている。また、継続して行うことで、その成果がはっきりと出ている。 | 教育相談担当：岡山 | |
| | ●…県共通 ○…学校独自 ○…志と誇りを高める教育 | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上と心の教育については、非認知能力に関する調査を利用し、支援の方法を考えていく。 ・夢や目標を持つ生徒の育成については、学校行事や学級活動、部活動等で称賞の場を設定する。 ・教職員の働き方改革の推進については、教職員の意識改善を図り、在校等時間の削減を図る。 ・不登校対策については、教育相談部会と「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」での情報交換を密にし、対応を協議する。 |
|----------------|---|